

第4回まちなか広場賞「カナドコロ」

工学院大学/川崎市/(株)ロスフィー

空地から始まる新しいまちづくりの実践

- 区画整理後30年間空いていた公益用地
- 広場利用への転換
- 環境技術産学官民連携共同研究事業

まちなか広場の新しいプロトタイプ開発

- DY、ローコスト、簡易な管理運営
- 自由に使える広場、地域で育てる広場
- 緑の力をつかう広場(グリーンインフラ)



金程地区の新たな「ヨリドコロ(拠り所)」









★ まちなか広場が地域に果たしている役割や価値

周辺地域におけるカナドコロの役割や果たしている価値は以下の4つが考えられます。

地域の開かれた憩いの場の創出

大通りに面し、地域住民の生活動線上に 立地していることから防犯性も高く、地域 に開かれた憩いの場を創出しています。



下校途中に立ち寄る女子高校生

子どもたちの 学びの場と機会の提供

子どもたちの日常的な自然とのふれあい やアクティブな外遊び、広場の整備のお手 伝いを通して、学びの機会を提供する場と なっています。



地域住民の交流や コミュニティ活動の場の提供

日常的な地域住民同士の交流を促すとと もに、地域団体主催のイベントを開催す る場となっています。その中でも住民同士



地域団体主催のイベントの定期開催

自治体所有の 遊休不動産の有効活用

低未利用地だった公有地を有効活用する ことで、不法投棄などの外部不経済の解 消、グリーンインフラ技術を活用した新た な環境技術の開発に貢献しています。



整備後のカナドコロ

第1階層:広場のシーン

①どれだけのアクティビティが生まれているか:利用状況

カナドコロは、1日の様々な時間帯にアクティビティが生まれています。また、日常とイベント時(非日常)で異なったアクティビティが生まれています。

●日常の利用

カナドコロの日常は様々な時間帯に様々なアクティビティが生まれています。朝は犬の散歩に利用、昼前は大人の憩いの場、昼すぎは親子の遊び場、 夕方は子どもたちで賑わうなど多様なアクティビティが生まれています。



昼前は大人の憩いの場

昼前は広場で休憩している 大人の姿が見られます。コ ンビニエンスストアが目の 前にあるため、買ったもの を広場で食べる人もいます。



子どもでにぎわう夕方

小学校の通学路に広場があ ることから授業後の夕方から 子どもが遊ぶ姿が見られます。 遊んだり、大学生と管理作 業を行うなど様々なアクティ ビティが生まれています。





朝

昼前

昼すぎ

夕方

19:00

朝は犬の散歩ルートに

この地域は朝早く活動し犬 を飼っている人が多いため 朝に犬の散歩をしている姿 が見られます。人と犬そし て犬同士の関わりも生まれ ています。



昼すぎは親子で仲良く利用

昼食後から夕飯の準備をす る前の時間は親子で利用す る姿が見られます。親子で 広場を散策したり花に水を あげるアクティビティが生ま れています。



第1階層:広場のシーン

①どれだけのアクティビティが生まれているか:利用状況

●日常のアクティビティ

カナドコロでのアクティビティは「遊ぶ・休む・育てる・学ぶ」に分けることが出来ます。また、その中で多様なアクティビティが生まれています。

遊ぶ

みんなで走り回る

広場を広く使って走り回るアクティ ビティが生まれています。



鬼ごっこをする様子

みんなで協力対戦

ベンチに座ってみんなでゲームを している姿も見られます。



ゲームをしている様子

季節の楽しみ

春には虫探し、冬には雪遊びといった季節ごとのアクティビティが生まれています。



テントウムシを探す姉妹



雪遊びをする親子

広場にあるものを利用

広場にある丸太で遊んだり、壊れたベンチをシーソーにして遊ぶといった広場にあるものを利用して遊ぶアクティビティが生まれています。



丸太を転がして遊ぶ子どもたち



丸太の上に乗って遊ぶ子どもたち



シーソーで遊ぶ子どもたち



ベンチでドンじゃんけん

その他

かくれんぼ、三輪車、スケートボード、ラジコン、マルチングで遊ぶ、散策、犬の散歩等々



第1階層:広場のシーン

①どれだけのアクティビティが生まれているか: 利用状況

休む

ウッドデッキで休憩

ウッドデッキやベンチで休憩したり談笑するというアクティビティが生まれています。 パーゴラに日よけを設置したことで暑い日にも休憩する姿が見られます。



ウッドデッキのベンチで休憩する親子



日よけ設置したパーゴラ

その他

読書、植物観賞等々

育てる

水やり

自分で種まきをした花に水をあげる 子どもや親子の姿が見られます。



草むしり

広場に雑草が生えてきたことで雑草を 抜く姿が見られるようになりました。



草むしりをする子ども

食事

ベンチで昼食を取る大人や親子、お菓 子を食べる子どもの姿が見られます。



パーゴラで食事をする家族

道路側に設けたベンチ

広場の外でも座ったり、食事をするという アクティビティが生まれています。



学ぶ

広場の環境づくり

広場の整備を子どもたちが手伝ってくれたことがきっかけで生まれたアクティピティ。 作業する際、この作業がどのようなことに繋がるかを話しながら行っています。



植生シート付けを行う学生と子ども



レイズドベッド作りをする子ども















第1階層:広場のシーン ●非日常のアクティビティ「カナドコロマーケット」



サナドコロマーケット

[日時] 2017年12月16日(土)11:00~14:00 *小雨決行、荒天中止



●SNS を開設しました!ぜひご覧ください! ・・・・・・・・ イベントやワークショップの情報も発信しています。 skanedokoro,endolab

■ bb bf¥aa











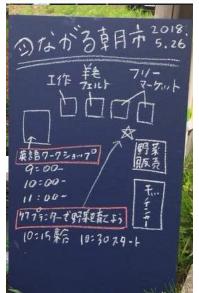




第1階層:広場のシーン●非日常のアクティビティ「つながる朝市」























イベント全体の様子





イスづくりの様子





第1階層:広場のシーン ●非日常のアクティビティ「広場をつくる様々なワークショップ」













学生による広場整備の様子:マルチング、ベンチ制作、植栽等(2017年9月下旬~9月末)

火第2階層:シーンを生む要素

②空間自体が良質な設えとなっているか:空間の設え

●広場全体のゾーニングによる秩序形成

広場全体は大きく以下の3つの空間に分節されています。分節はゆるやかであり、今後も利活用にあわせて手の加えられる余地が残されています。

①人の滞留を促す空間

入口付近にデッキを配置しているので、利用者の活動が見え、入りやすさや利用しやすさを演出しました。

②人の自由で活発な活動を促す空間

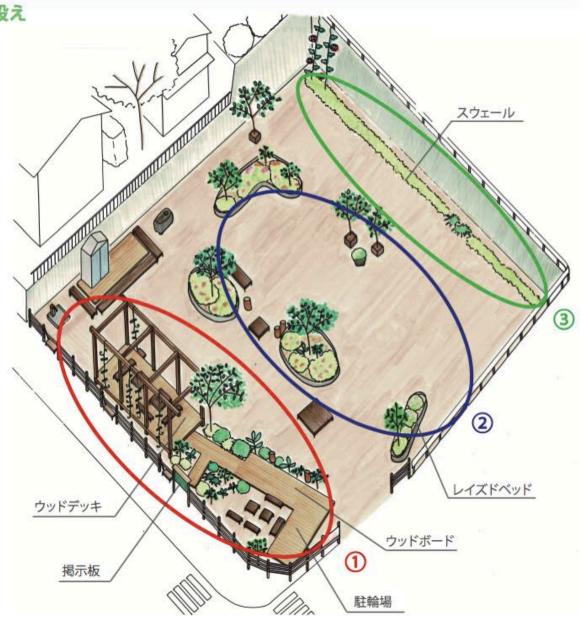
植栽で分節されています。自由度の高いスペースでなので、より活発的なアクティビティができる設えになっています。あえて何かモノを整備しないことで、広いスペースが生まれ、自由な活動が生まれるきっかけとなります。

③生き物や自然を育てる空間

①と②とは違った野性味のある自然を残す・整備することで子ど もたちの学びの場となります。自然そのものを残しているので、生 き物が集まりやすく、昆虫採集ができます。

④その他の設え

- イベント時はスウェール側を関係車両の駐車場として活用しています。
- ・小屋の横に消火器を設置しています。
- ・広場設備として植栽及びイベント用の上水道・下水道が整備されています。
- 電源と電気機器類は設けていません。



※第2階層:シーンを生む要素

②空間自体が良質な設えとなっているか:空間の設え

●緑による居場所の形成

カナドコロにはたくさんの種類の植物が植えられ ています。様々な植物があることで、カナドコロで 季節を感じられる居場所を形成しています。

中木







サクラ

ムラサキシキブ

モミジ

低木







ツバキ

オタフクナンテン ヒイラギ

草花







ナデシコ

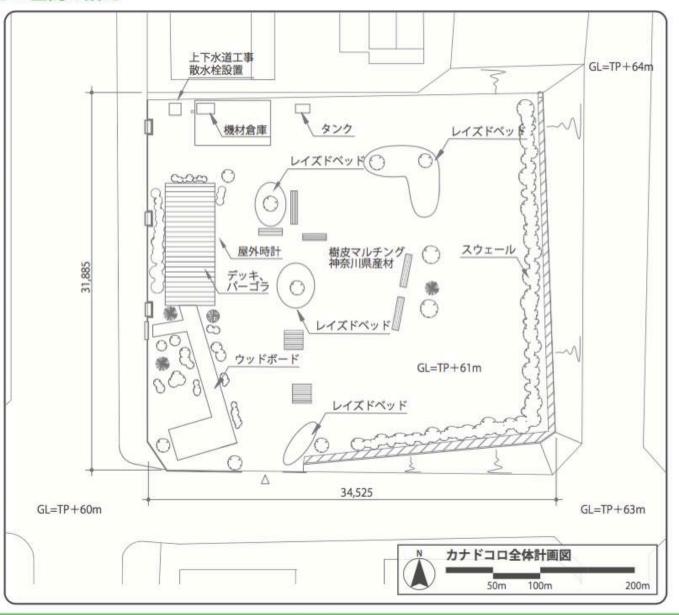
菜の花

キキョウ

種まきワークショップ

2018年6月16日・30日に開催し たワークショップで、夏に咲く花 の種をまきました。(ひまわり・あ さがお・サルビア・コスモス・矢車 草)







③隣接地の状況を捉えているか:周囲との関係性

●周辺道路との関係

正面道路

地域の主要な道路です。バス路線でもあるため交通量が多い道路となっています。 また、この道路を横断した先には小学校、中 学校、高校があります。

侧方道路

交通量は少なく、新百合ケ丘駅方面と小学校 を結ぶ通学路になっています。

南側擁壁

南側の道路から広場には最大高低差約4m の擁壁が設けられています。

●近隣住宅等との関係

近隣住宅との関係

北側近隣住宅と道路を挟んだ南側の住宅と広場整備時から頻繁に交流しています。

向かいのコンビニエンスストア

正面道路を挟んだ向かい側に24時間営業 のコンビニエンスストアがあります。 安全性の確保正面性の確保

安全性の確保

安全性の確保

広場との分節 信頼関係の構築

補完関係の構築



③隣接地の状況を捉えているか:周囲との関係性

●周辺道路との関係

正面道路

安全性の確保

子どもの飛び出しを防ぐために広場と道路の境 界に柵と花壇を設置しています。死角のない見 通しの良い柵により防犯面にも配慮しています。



正面道路から見た広場の様子

正面性の確保

正面道路側に花壇やベンチを設置することで 道路に対する正面性を生み出すデザインと なっています。



道路側ペンチ・ウッドデッキの様子

南側擁壁

安全性の確保

最大約4mの高低差があるため、子どもが登って遊ぶことを抑制するよう、擁壁の足元に幅2m程度のスウェール植栽帯を設けて子どもを遠ざけるようなデザインとしています。



擁壁とスウェールの様子

侧方道路

安全性の確保

交通量が少ない側方道路側に入り口を設置する ことで安全性の確保をしています。



広場入り口の様子

●近隣住宅等との関係

北側住宅

広場との区分

広場と分節するために隣地側に機材倉庫、水道 設備、水タンクを設置して利用者と遠ざけるよ うに配慮しています。



北側住宅と広場の境界の様子

信頼関係の構築

広場整備時から頻繁な交流を心掛けました。 その結果現在では植栽の水やりや除草など の世話をしてくれています。また、水道開 設以前は水を提供してくださいました。



水やりをお手伝いして下さっている様子

道路を挟んで南側の住宅

信頼関係の構築

広場整備前から頻繁に交流をし、様々な事象に ついて助言をくださる関係を構築しています。 町会の関係者や地元関係議員等との人脈作り を支援してくれています。



助言をして下さっている様子

向かいのコンビニエンスストア

補完関係の構築

広場に休憩できる場所を設けることで、買った 弁当やお菓子を広場で食べるなど、広場の目の 前のコンピニと補完関係の構築を目指していま す。



ウッドデッキで食事をする様子

〇、第2階層:シーンを生む要素

4周辺環境を踏まえた場となっているか: 立地の読み解き

●地域らしさ、わかりやすさを考えた広場の名前

カナドコロ = ☆程地区の新たなヨリドコロ

●落ち着いた住宅街の立地

周辺への配慮

地域全体の基本属性は住宅地であることか ら火気利用、ボール遊びについては禁止事 項としてお知らせしています。またイベン ト時には騒音に注意しながら行っています。

生活者の利用

新百合ヶ丘駅から徒歩15分・バス6分の 落ち着いた住宅街に立地しています。 地域住民の利用が多く見られます。

●学校に近い立地

防犯面、安全性に配慮

周辺には小学校・中学校・高校があり、通 学路に面します。そのため、防犯面・安全 面を配慮した広場のデザインにしています。

子どもの利用

子どもの利用が高い地域であるため、様々な 活動が生まれるように自由度の高い設え の広場となっています。

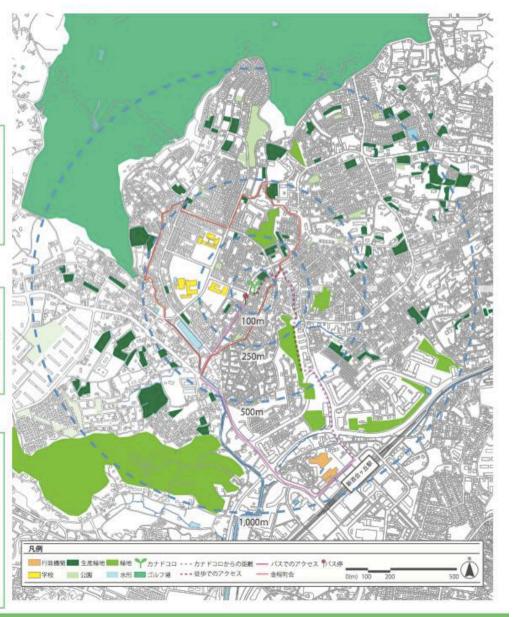
●地域の緑環境の強化

グリーンインフラ機能の導入

カナドコロ周辺には多くの生産緑地・公園・緑地 (里山・河川等)があり、グリーンインフラのネット ワークを形成しています。カナドコロも生態系のた めの緑のネットワーク強化を計るためにグリーン インフラを意識したハード整備を行っています。

> 川崎市の緑の基本計画の中で紹介されました。 川崎市緑の基本計画 第3章「緑の基本計画」 148ページ 緑の取り組みコラム参照







〇、第3階層:要素を支える仕組み

⑥効果的な管理・運営が実践されているか:管理・運営

●維持管理作業

定期的な見回り

管理者である大学研究室は、週1回数名が広場に足を運び、掃除や見回りなどを行 なっています。作業はルーチン化して簡易に行えるようにしています。大学研究室は 管理・運営のために6名の学生チームを編成しています。

→管理の透明性が知れ、住民の方の安心性につながります。

作業報告書

行った作業を報告書としてまとめ、管理者全体への共有を図っています。

| 内容 | 計算報理 |
|---------|-----------------------------|
| 掃除 | ゴミ拾い、ベンチ拭きを行う |
| 水やり | 植物への水やりを行う |
| 掲示板の管理 | 広場の注意書きやイベントのお知らせを 記載する |
| 水タンクの点検 | 水が残っているか確認をする |
| 安全点検 | ベンチの破損や危険なものがないか 点検を行う |
| 作業報告書 | その日の作業内容や広場の様子を 報告書にまとめる |



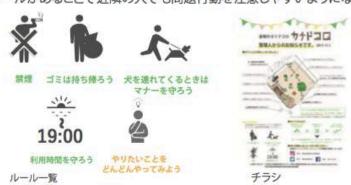
管理作業一覧

作業報告書

広場の利用ルール

誰もが安心して使えるよう、最低限のルールを作りました。 近隣にチラシ配布をしたり広場にパネルで掲示したりしています。

→ルールがあることで近隣の人でも問題行動を注意しやすいようになります。



●地元を巻き込んで広場を育てる運営

イベント

広場のマネジメントに住民を巻き込むためのイベントを適宜行っています。 オープニングイベント(植樹、マルチング、DIY)やカナドコロ・マーケット(地元や大学から9 店舗参加)等のイベントを行いました。カナドコロ・マーケットは、その後、つながる朝市に 発展しました。

日常

子どもたちとの掲示板作成や水やり、語らいの中でつながりができました。





整備の様子

朝市での様子

●カナドコロに関する情報発信

SNSや広報のメディアで発信されることで、たくさんの人に知ってもらえ、多様な利用につ ながります。









タウンニュース麻牛区販





MYTOWN

タウンニュース 麻生区版

twitter

facebook

instagram

タウンニュース麻牛区版

しんゆり・芸術のまち MYTOWN つなぐッドKAWASAKI 神奈川新聞

https://www.townnews.co.jp/0205/2017/12/08/410520.html https://www.townnews.co.jp/0205/2018/06/01/434224.html https://shinyuri-art.com/event/other/3634.html http://e-mytown.com/events/24540.html https://www.tsuna-good.city.kawasaki.jp/report/1536

http://www.kanaloco.jp/article/326173

維持管理作業の内容

内容

詳細

清掃

ゴミ拾い、ベンチ拭きを行う

水やり

植物への水やりを行う

掲示板の管理

広場の注意書きやイベントのお知らせを記載する

水タンクの点検

水が残っているか確認をする

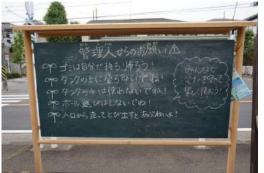
安全点検

危険なもの・行為がないか点検を行う

作業報告書

作業日の作業内容や広場の様子を報告書にまとめる









⑦多様な関係者との協働による計画・整備・運営を行っているか:プロセス・デザイン

●地域住民と専門家による時間をかけた広場マネジメント

カナドコロでは、DIYによる管理・運営のローコスト化や、住民の視点や広場の利用状況に合わせてデザインマネジメントを行っています。 このプロセスに地域住民や子どもが積極的に参加することで、広場マネジメントが地域にとって「自分ごと」になることを図っています。 グリーンインフラとしての広場の一部施工と植栽・スウェール等のDIY技術指導は(株)ロスフィー(ランドスケープデザイナー・保清人氏)の協力を得ています。

広々とした シンプルな広場

当初のデザイン

- 休憩できるウッドデッキ
- 柔らかいマルチング
- ・ざっくりスウェール



全体写真





側溝のみのスウェール

地域住民と一緒に広場を育てる3つのマネジメント手法

地域住民の意見を収集

初動期に広場の考え方の共有を目的とした座談会を行 いました。住民の思いや不安等から課題を抽出し、広場 の管理や使われ方への助言等への対応も行いました。





イベントでの関わり

マーケット等のイベントを開催する中で、来場者の意見 を収集しました。





やりたいことボード



緑あふれ

人々が集う広場

現在のデザイン

・夏場でも快適な日除け

多くの居場所をつくる

レイズドベッド

広場の全景





つながる朝市

日常的な管理

植栽やマルチング等のランドスケーブ要素の整備やルーチン化された広場管理・運営によって、広場の利用状況を こまめに収集しています。また、広場を利用している子どもたちとや近隣の住民のみなさんと一緒に行うことで、地域 とのコミニュケーションの機会となっています。



レイズドベッド整備





広場利用者へのヒアリング



子どもたちと親交を深める遊び



2017年9月30日(オープン前日)





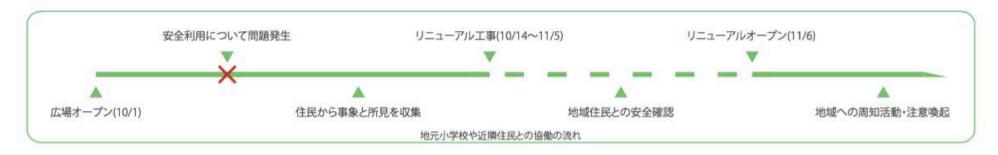
2018年6月頃

☆ 第4階層:仕組みを活かす人・組織

⑦多様な関係者との協働による計画・整備・運営を行っているか:プロセス・デザイン

●地元小学校や近隣住民との協働による広場マネジメント

近隣の金程小学校から広場利用での安全面に関する助言をいただき、小学校関係者や地域住民、防犯パトロールとも情報を共有しながらリニューアル工事を行いました。 また地域教育会議(地域の三つの小中学校の児童・生徒の代表が集まり様々な議題について討論する定例の会議)にて、カナドコロをディスカッションの題材に取り上げてい



●大学研究室による研究・教育としての広場マネジメント

大学が広場マネジメントのコストを負担することの正当性は、これらの活動が大学にとって研究・教育活動としての有意 義な側面を備えていることにあります。ここでの研究の側面とは、グリーンインフラとしての空地デザイン技術の開発です。教 育の側面とは、広場の整備とマネジメントへの学生の関わり(開かれた場としての運営、DIYを主とする整備プロセス)が、ま ちづくり人材に必要な「コミュニケーション技能」と「プレイスメイキング技能」を習得する実践教育(Practice Based Learning)の機会となることです。

大学研究室が研究・教育としての側面を持って広場DIY整備とマネジメント事業を行うことにより、その事業自体が非収益であっても整備とマネジメントを持続的に進めることが可能です。この手法は、収益事業が見込めないような空き地の「公共的利用」をスタートアップする場合に広く応用可能(アプリカブル)です。更に、学生のマンパワー(若さと人数)もマネジメントの持続性を補っています。

研究としての整備・マネジメントには実施主体の高度な専門性が問われますが、一方で教育としての整備・マネジメントであれば、管理運営ノウハウの提供と教育プログラム上の位置づけ明確化により、地域に根ざした高校などの教育機関でも展開可能と考えられます。



ワークショップ時のプレイスメイキング



子どもたちとイスづくりワークショップ

